

通常の学級と通級による 指導の連携と学びの連続性

豊橋市立二川南小学校 河合 良介



豊橋市立二川南小学校

ふた がわ みなみ



平成25年～27年 市の「特別支援教育」の研究委嘱
を受け、「**連携**」をテーマに研究を行う。



「**つなぐ**」を合言葉に、教師どうしの関係を深め、
子どもの理解を深めたり、情報を共有したりする。

二川南小の通級指導教室

○平成20年に開設。設置種別はADHD。

※豊橋市内には、小中74校中、14校に設置。(中学校は1校)

○29年度は、34名の児童が利用している。

・二川南小 : 19名

・巡回指導 : 15名

(小学校2校 中学校1校)

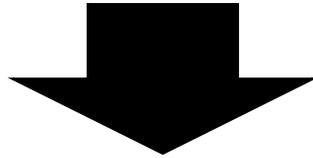
○指導の形態は個別・ペア・グループと様々であるが、最近ではペア・グループが多い。



「指導の連携」と「学びの連続性」をどう考えるか

＜指導の連携＞

通常の学級の担任と通級担当教員との間で、
子どもを捉える視点をそろえる。

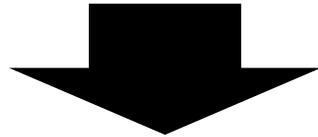


- 通常の学級の担任が、子どもの特性を理解している。
- 通級担当教員が、子どもの特性を正しく理解し、支援の方法を伝えることができる。

子どもの捉えにズレがあると、
連携のとれた指導は難しい。

「指導の連携」について

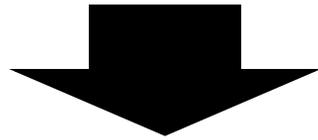
子どもを捉える視点をそろえるために①



- 4月当初に、通級についての理解を深めたり、子どもの特性を伝えたりする場を設ける。
- 全教員を対象に、特別支援教育について「**教員研修**」を行い子どもの特性の理解や支援の方法について話をする。
- 職員会議のあとの情報交換**で、子どもの現在の情報を伝えたり、支援の方法について話をしたりする。

「指導の連携」について

子どもを捉える視点をそろえるために②

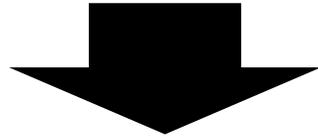


○通級での指導の様子を通級指導記録に書き、指導後に学級担任に渡す。その際に、通級で行っている指導が、その子どもにとってどういう「意味」や「必要性」があるかを書く。

○学級担任との関係を深め、いつでも・どこでも話ができる環境をつくる。そして、学級担任の悩みを共有し、子どものことを一緒に考えることで、頼りにされる存在になる。

「指導の連携」について

子どもを捉える視点をそろえるために③



○学年末に、個別の教育支援計画をもとに、担任・保護者
通級担当教員（特別支援教育コーディネーター）で懇談を行う。

- ・一年間の評価と来年度の目標の設定
- ・来年度の通級の指導内容の確認
- ・引継ぎ事項の確認

これらの内容を記録し、来年度の担任等に引継ぐ。

○他校の教育支援委員会に参加する。

- ・現在、通級に来ている子どもの情報交換をしたり、今後通級の指導を考えている子どもの情報を得たりする。

「学びの連続性」について

子どもの「**学びの基礎**」をつくり、「**対人関係のスキル**」を身につけることが、学びの連続性につながる。



○学びのどこに躓きがあるかを、様々な情報をもとに判断し通級の指導内容を考える。

○本人や担任、保護者から情報を得るために、対話を大切に
にする。

※通級担当教員自身の、「対人関係のスキル」も必要となる

客観的な視点に立ち、子どもたちを見ることが大切

「学びの連続性」について

学びのどこに躓きがあるかを、正しく判断するために



○学級担任からの情報提供

※授業の様子、テストの結果、ノート等の書字、音読の様子など

○授業参観・授業への参加

※時間があれば、積極的に授業参観をする。

見るだけでなく、授業に入り子どもの指導・支援を行う。

○スクールカウンセラーとの連携＋学級担任への説明

※客観的なデータをもとに、得意・不得意な部分を把握する。

その内容を、学級担任にわかりやすい言葉に直して伝える。

今まで行ってきた指導内容の一例

<字を書くのが苦手>

通級・・・視知覚機能のどこ(眼球運動？視空間認知？目と手の協調運動？)に苦手さがあるかを判断し、トレーニングを行う。目と手の協調運動を行う。

※通級を利用している子だけでなく、書字に苦手さがある子を朝の10分程度の時間を利用して、指導する場合もある。

学級・・・字形の崩れがあっても、ある程度OKとする。

黒板を写真に撮り、あとで書き写す。
書く部分を限定し、全部を書かなくてもよいとする。

通級指導で使っている補助具を、学級でも使う。



<姿勢の保持が難しい>

通級・・・バランスボール等を使った感覚統合運動を行う。

学級・・・イスにクッションや滑り止めシートをはる。

<国語の読み取りが難しい>

通級・・・3、4行の読み取り問題を使い、文章を読む・内容を想像する・設問の意味を理解する学習をする。

学級・・・テスト中に担任や支援員が問題文を読む。
別室で、時間をかけてテストを行う。

<準備や片付けが苦手>

通級・・・学級の机の周りの様子を写真に撮り、片付けの方法を一緒に考える。

学級・・・机の右上に、片付けの手順表をはる。

かたづけまでのスケジュール

①	タツぼこに、タツをいれる		
②	うわぐつをはく		
③	きょうしつ、い敷室に行く		
④	自分のつくえに行く		
⑤	ランドセルをおく		
⑥	きょうかしよノートを出す		
⑦	ふでばこを出す		
⑧	しゅくだい、れんらくちようをだす		
⑨	つくえにいれる		
⑩	ロッカーにいれる		
ぜんぶできたかな？ ぜんぶできたらシール1つゲット！！			シール

< 気持ちを表出したり、理解したりするのが苦手 >

通級・・・コミック会話の形式を使い、気持ちの表出をしたり、相手の気持ちを理解したりする。会話の内容を、ホワイトボードや黒板に書き、それを写真に撮り、記録をする。

学級・・・会話の内容を撮った写真を見て、対応の仕方を考えたり、子どもの理解につなげたりする。

< 対人関係を築くのが苦手 >

通級・・・ソーシャルスキルトレーニングを行い、「教示」「モデリング」「リハーサル」の手順で、正しい関わり方を教える。

トラブルになった子を通級教室によび、一緒に話を聞く。

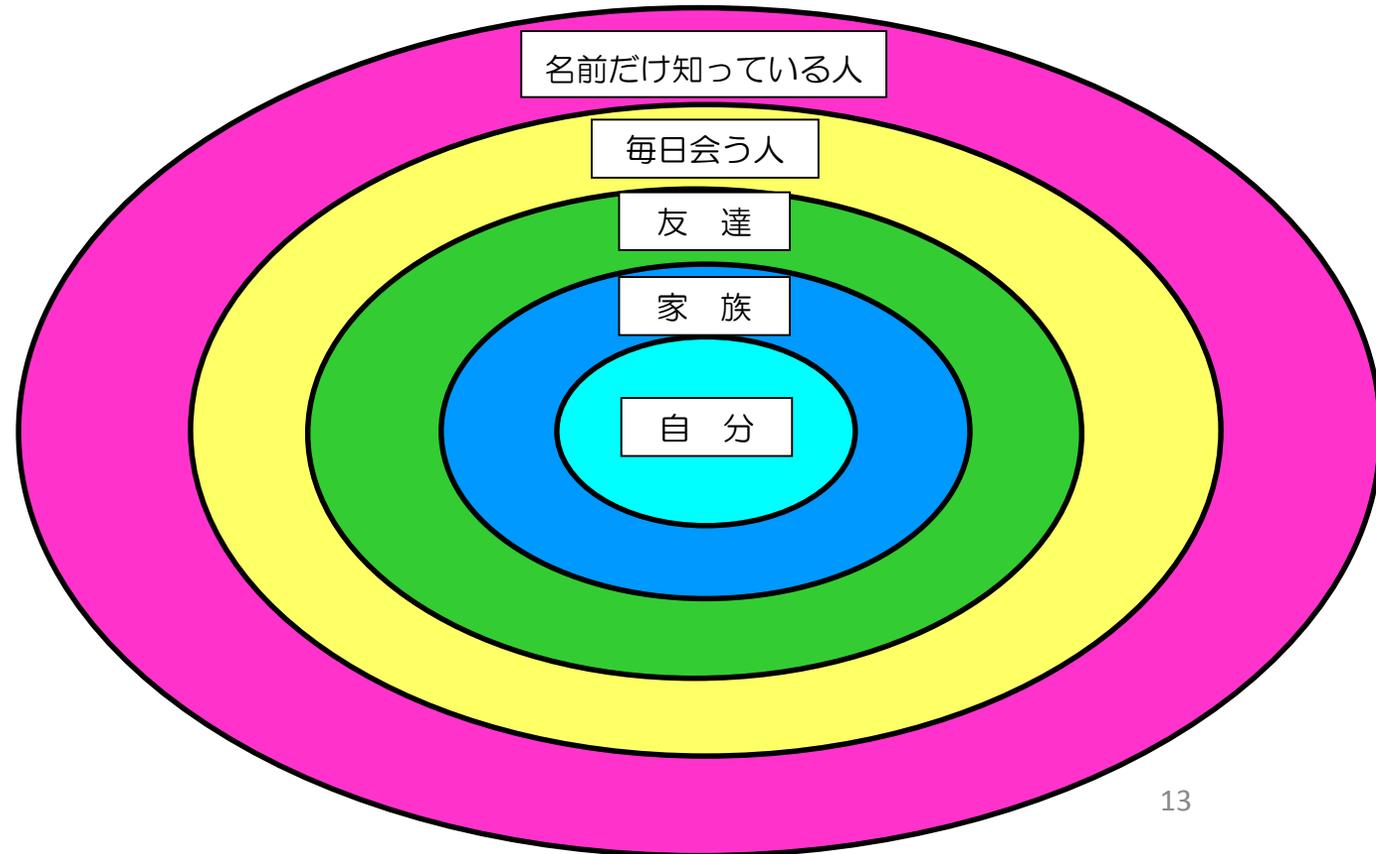
学級・・・通級で学んだことを学級で「般化」できたときに、それを担任、通級担当の両者で評価をする。

<人との適切な距離を保つことが苦手>

通級・・・パーソナルスペースを意識できるような「ロールプレイ」を行う。

関わり表を使い、どの人までが、どのような関わりが許されるかを、一つ一つ確認する。

学級・・・担任・養護教諭に子どもが自分の体のことをどれくらい知っているかを確認してもらう。
(女子児童の場合)



<運動会に参加することが苦手>

通級・・・プログラムを見ながら、出れそうな種目・出るのが難しい種目を確認する。当日の見通しがもてるように、スケジュール表を作成する。

学級・・・出られそうな種目の練習に参加する際、通級担当教員と一緒に参加する。



<リコーダーが苦手>

通級・・・リコーダーの穴のまわりに木工用ボンドをつけ、空気が抜けられない状態にして練習をする。

学級・・・子どもからの希望があり、保護者からの承諾も得た子に限り、同じように木工用ボンドをつける。学級の子どもも、同じようにしているため、安心して使うことができる。

今まで行ってきた指導内容の一例

<身だしなみを整えたり、体を清潔に保ったりすることが苦手>

通級・・・身だしなみチェック表を作成し、毎時間毎時間身だしなみのチェックを行う。男子児童の場合、体の洗い方や性器の洗い方を教える。



学級・・・チェック表を子どもと一緒に確認して、ハンカチは必ず持ってくるように言葉かけをする。

	内容	/	/	メモ
1	歯みがきを、朝と晩にしている			
2	毎朝、顔を洗っている			
3	毎日風呂に入り、せっけんなどを使って、体を洗っている。(わき・股なども)			
4	頭を毎日、または2日に1回洗っている			
5	靴下、下着を毎日替えている			
6	ハンカチやティッシュを毎日持ってきている			
7	ねぐせがないか、目やにがついていないかを毎朝、鏡を見て確認している			
8	鼻水・鼻くそが出ていないか、気にしている			
9	つめが伸びたら切る。髪を定期的に切っている			
10	自分で服を選んでいる。毎日、服をかえている			
11	服が汚れていないか、シャツが出ていないかを気にしている			
12	人に向けて、くしゃみやせき、げっぷをしない。またするときは、手でおおっている			
13	トイレのあとや食事の前に、手をあらっている			
14	食事のあと、口のまわりをふいている			
15	人前でまたをさわったり、かいたりしていない			

＜登校をしづる児童への対応＞

通級・・・通級の時間だけでも学校に来るように促す。通級では、話をしたり、一緒に遊んだりするなど、本人の気持ちがり落ち着けるようにする。

学校・・・通級での時間以外に、児童が登校してきた時に、誰が(学級) 対応できるかわかるように、個人の時間割を作成する。

支援員

永田先生

	6月23日 日	6月24日 火	6月25日 水	6月26日 木	6月27日 金
1時限	★	★	★	★	★
2時限	2年	★	1年プール	2の3	1年プール
3時限	1年プール	2年プール	1年	★	2年プール
4時限	★	★	2の3	1年	★
給食・掃除	2の2	2の2	2の2	2の2	2の2
5時限	2の3	2の3	1年		2の3
6時限					

生活サポート主任

山内 今週の予定

	6月23日 月	6月24日 火	6月25日 水	6月26日 木	6月27日 金	チューター	
	月	火	水	木	金	6月23日 月	6月25日 水
1時限	会議				5-2TT	1年	
2時限		ふたばプール	★	4の2授業	★	1年	
3時限	5-2図工	準備	2の1授業	1の1授業	6-2書写		
4時限	5-2図工		ふたばプール	★			
給食・掃除	2年		2年	2年	2年	0年	
5時限	6-3書写		3の2授業		6-1書写		2年
6時限							4の3

通級担当教員

河合先生

	6月23日 月	6月24日 火	6月25日 水	6月26日 木	6月27日 金
1時限	*	*	他校通級	*	他校通級
2時限	★	*	他校通級	*	他校通級
3時限	*	他校通級	*	★	*
4時限		*	★	*	*
給食・掃除	ふたば	ふたば	ふたば	ふたば	ふたば
5時限	*		*	*	他校通級
6時限	委員会	ふたば	他校通級		

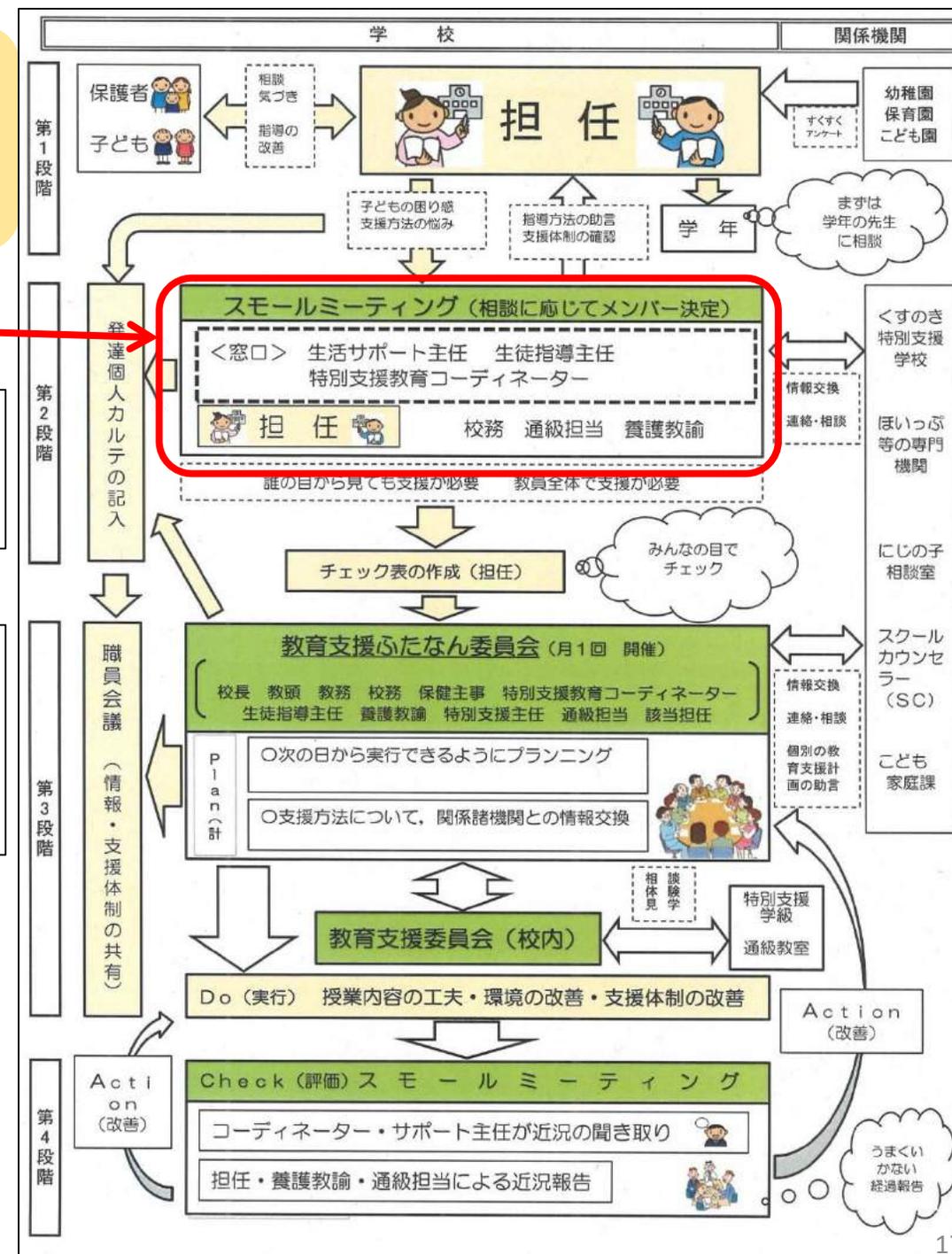
学級担任との関係を深め、いつでも・どこでも話ができる環境づくり

校内支援体制MAP(スモールミーティング)

気になることがあれば、メンバーがすぐに集まり、すぐにできる支援の方法を担当とともに考える。

担任(若い先生や、初めて担任をもつ先生)が、一人で悩みを抱えず、みんなで子どもに寄り添い支援をする。

- 子どものことで困ったことがあれば、すぐに相談できる、相談してもらえる関係ができる。
- 通級を利用している子の情報交換を、いつでもどこでも行うことができる。



通級指導記録で学級担任にどのように伝えるか

通級での指導が、どんな「意味」や「必要性」があるのかを伝える



○幼保こども園からの引き継ぎ内容 ○保護者からの情報 ○今までの学校での様子
○WISC-IVの結果 ○スクールカウンセラーの所見 ○主治医からの手紙 など
これらの情報をもとに、子どもの得意な部分・苦手な部分を担任に伝える。
そして、通級の指導のどの学習が、子どもの苦手さの改善につながるのかを
簡単な言葉にして伝える。



○通級を利用している子どもの様々な行動を、多面的に捉えることができ、
子どものがんばりを認めたり、適切な指導につなげたりすることができる。
○他の子の理解につなげたり、通級の指導を授業に生かしたりできる。
※指示を短くする。視覚的な教材を利用する。褒める部分を多くもつ。
「できない」「やれない」と決めつけず、「どうしてだろう」と背景を考える。

通級での指導が、どんな「意味」や「必要性」があるのかを伝える



- 言葉にして伝える際には、できる限りわかりやすい言葉やイメージしやすい内容にして伝える。
- 専門的な用語を使う場合、その言葉が独り歩きしないように、子どもの実態に即して話をする。
- 授業の様子をイメージしながら、どの教科のどの場面で、苦手さがみられる可能性があるか考え、それを学級担任に伝える。
- わかりやすい言葉を使い、イメージしやすくすることで、専門的な内容についての理解が深まり、結果、それが子どもたちの指導にもつながっていく。

学級担任が能動的に考え、実践できる手助けをする

教員研修で伝え続けていること

<子どものことを理解する視点>

- **子どものこと(実態や特性など)**を理解しましょう。
- 子どもが落ち着いたり、安心できたりする**環境づくり**をしていきましょう。
- **子ども実態に応じた、適切な支援や指導**をしていきましょう。(その一つが通級指導教室)
- 子どもが「**わかる・できる・楽しい**」と実感できる授業を考えていきましょう。
- **子どものことをみんなで共通理解**をしていきましょう。

<どんな支援が必要か①>

○目立たない時ほど、ほめるチャンス

⇒できて当たり前だと思わず、できたことをほめられるように。

○すぐにほめる まめにほめる

⇒結果ではなく、過程をほめたり自分がどう思ったかを伝えたりする
「ありがとう、すごく助かったよ」等

○自尊心を育てる

⇒励まし、努力を認め、必要な支援をする。
二次的な障がいにならないようにする。

○子どもの行動を、科学的に分析する

⇒応用行動分析（ABA）を活用する。

<どんな支援が必要か②>

○集中できる環境づくりをする

⇒教室にゴミが落ちていたり、物が散乱していたりしないか確認する。

机の上の物をしまってから、話を始める。

○指示語を具体的な言葉にかえる

⇒「あれやって」「それやるんだよ」では、何のことかわからなくなる。

「自分で考えて！」は、やり方がわからない子にとって、混乱するだけ。

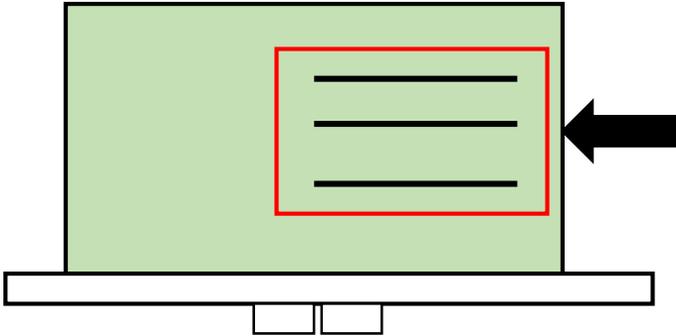
○指示はシンプルに

⇒長い説明やたくさんの指示、何かをしながらの指示は避ける。

※ワーキングメモリの容量が大きく関与

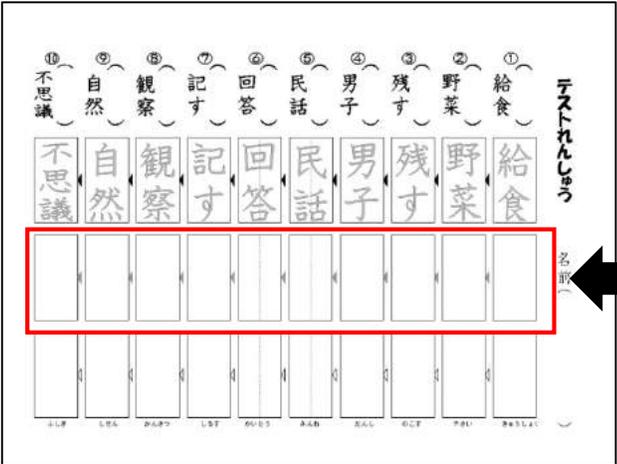
<どんな支援が必要か③>

①「これだけは」を決める



写してほしい部分に枠を付ける。

②課題の量を調整する



ここだけを丁寧に書く、などの配慮をする。

③姿勢をよくしたり、補助具を使ったりする

姿勢や持ち方が悪いと、字形を捉えるのが難しくなる。



<どんな支援が必要か④>

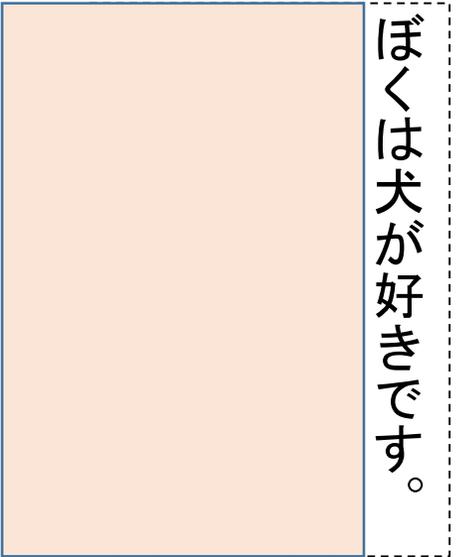
① 単語や文節を線で区切る

ぼくは 一犬が 一
好き 一です。
どうして 一犬が 一
好きかと 一いうと、

② 読み誤りやすい単語に色をつける

ぼくは犬が好きです。
どうして
犬が好きか **と**いうと、
犬は、かい主にな**っ**いて

③ 補助シートを使う



④ バランス感覚を養う



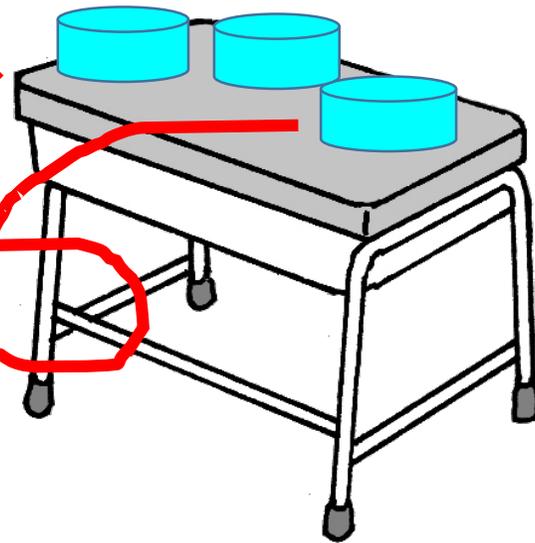
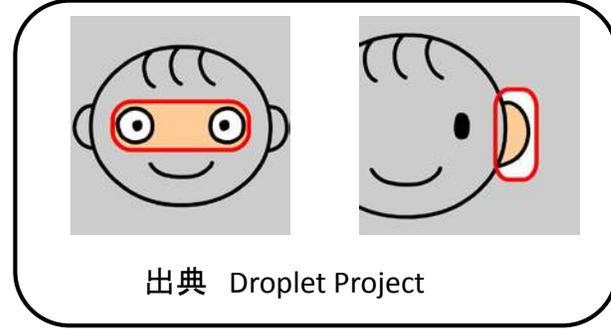
<子どもの特性を捉える①>

～ワーキングメモリとは～

⇒目や耳から得た記憶を一時的に保持し、情報を同時に処理する。

机で例えるなら作業機の広さ。

ADHDの子を含め発達障がいのある子は、この机の面積が狭い。



指示がたくさんあると、処理しきれなくて、机から落ちてしまう
⇒忘れてしまう。
途中で違うことをやっている。

- 指示は短く、シンプルにする。
- 動きを止めてから話をする。
- 視覚的にわかるものを用意をする。
- 大事な話は、あとから個別に話す。

<子どもの特性を捉える②>

～応用行動分析とは～

- 全ての行動は、周囲の環境の影響を受けている。
- 行動の前後に注目することで、行動がどのような機能(下記の①～④)をもっているかがわかる。



子どもが、どんな得をしているか

先行条件
(～したとき)



行 動
(～したら)

- ① 逃避・回避行動
- ② 注目行動
- ③ 物・活動要求行動
- ④ 感覚要求行動



結果条件
(～なった)

<子どもの特性を捉える③>

～ビジョントレーニングとは～

視力は良いが、下記のような様子が見られ、何らかの「**視覚機能**」が正常に働かない状態の子に対して、適切なトレーニングをおこなうこと



同じ行を何度も読んだり、読んでいる場所がわからなくなる



頭を動かしながら本を読んだり、黒板の字を書く



物や人によくぶつかる



はしやはさみをうまく使えない



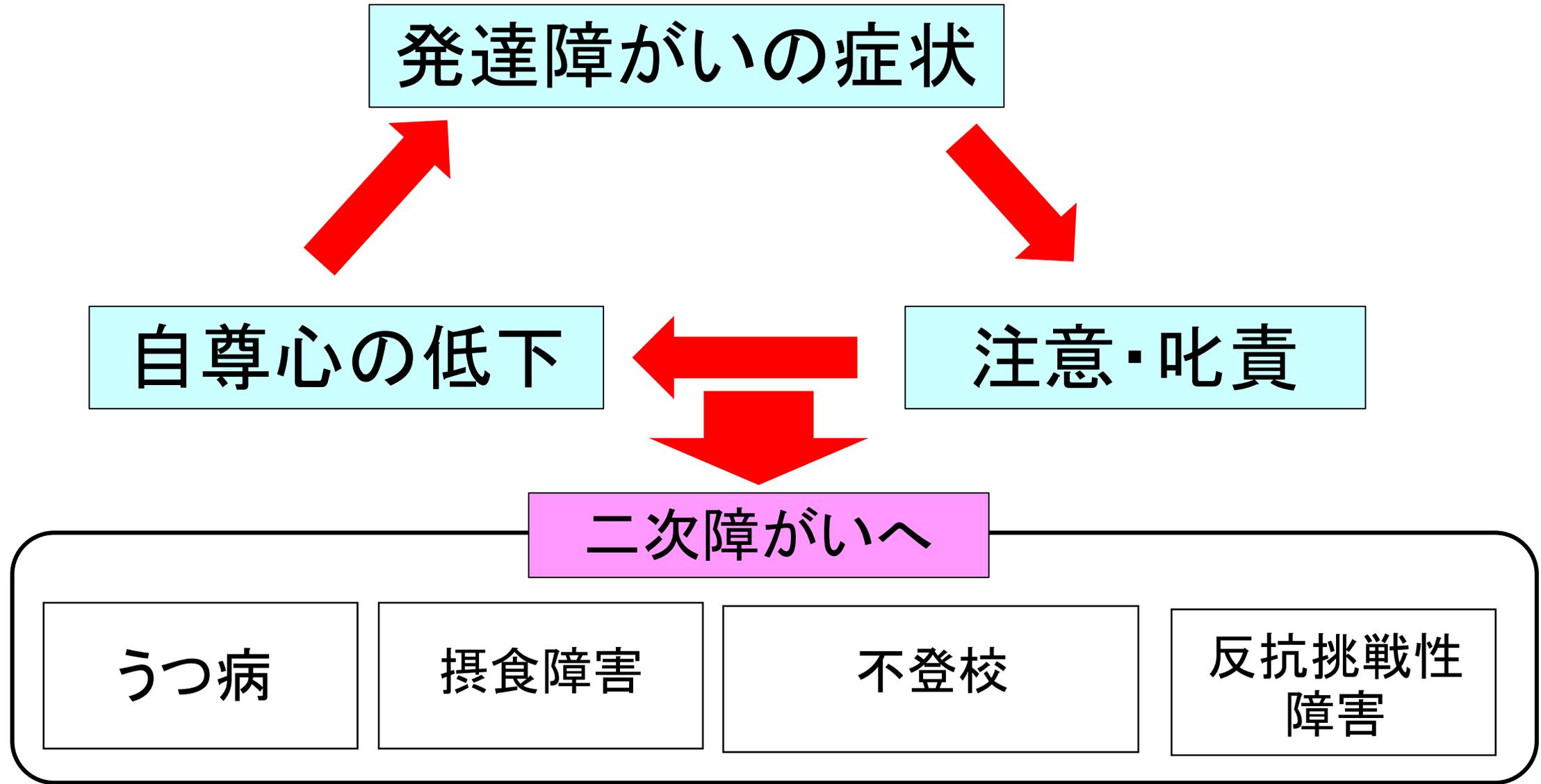
ボールをうまく受け取れない



ビジョントレーニングが有効な場合がある。

<子どもの特性を捉える④>

～二次障害とは～



教員研修で伝え続けていること

＜その子に寄り添うために＞

- どの子も一生懸命のびようとしている。そして、その子なりの成長をしている。
- 「できない」と決めつけたり「できて当たり前」という価値基準をなくしたりする。(できる子はいいい子？できない子は悪い子？)
- 「困る子」ではなく、「困っている子」としてみる。
- 自閉症スペクトラムだから、ADHDだからという解釈をしない。障がいはその子の一部でしかない。
- 人は誰もが個性や特性をもっている。違いがあれども
どの子も大切にし、あたたかく見守る。